

第5回 コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）に関する普及検討委員会
議事要旨

1. 日 時

令和3年12月22日（水）14:00～15:30

2. 開催形式

WEB 会議

3. 議事要旨

(1) マレーシアにおけるアクションプランの取組状況について

事務局より、令和4年1月に開催予定の二国間政策対話や同年2月に開催予定のコールドチェーン普及啓発セミナーの調整状況を紹介する等、マレーシアにおけるアクションプランの取組状況について報告を行った。

(2) インドネシア及びタイにおけるアクションプラン策定に向けた調査の中間報告、アクションプランの骨子案について

事務局より、インドネシア及びタイの政府機関、物流関係団体、物流事業者に対するヒアリング調査の中間報告を行うとともに、両国におけるアクションプランの骨子案について説明を行った。

(3) 意見交換

委員からは、主に以下のような発言があった。

- 現地の荷主及び物流事業者の双方に規格の必要性を認識してもらうことが重要であり、特にスーパーマーケットなど買い手（荷主）側の理解が深まらなないと、規格の要求水準の維持に必要な追加コストを負担してもらえないと感じている。
- 現地の物流事業者に規格の認証取得のメリットを訴求していくことが重要であり、規格の認証取得による恩恵を享受できるよう、税制優遇措置等のインセンティブは有効であると考えられる。
- タイのバンコクでは、日中の大型トラックの通行規制のため、小型トラックで配送を行っているが、それでは十分なサービス品質を保持できないことから、こうした課題を解決することも重要ではないか。
- 規格の要求水準に適合していることを物流事業者自らが評価し公表する「自己適合宣言制度」については、物流事業者にとって導入のハードルが下がるため、規格の認知度向上の観点から有効であると感じる一方、信頼性を確保する上では、政府からの「お墨付き」が必要であると考えられる。

- 昨今、物流業界においても SDGs に取り組むことは必須となっている。マレーシア政府が推進するフードバンク・プロジェクトと連携するなど、規格の認証取得が SDGs に貢献することをアピールすることは重要ではないか。また、海外では若い世代が SDGs の活動に積極的に取り組んでいる印象があり、そうした世代に JSA-S1004 をアピールすることにより、SNS 等を通じて規格が広まる可能性もあるのではないか。
- ハラルへの対応については国によって様々であることを考慮しつつ、コールドチェーンの普及を進めていく必要がある。
- 現在、郵船ロジスティクス株式会社のマレーシア現地法人が JSA-S1004 の認証取得に向け審査を受けている。この認証取得にあたっての経験や課題を幅広く共有し、JSA-S1004 の普及に貢献していきたい。

【今後の予定】

- 次回検討委員会は令和 4 年 3 月に開催し、マレーシアにおけるコールドチェーン普及啓発セミナーの結果報告を行うほか、インドネシア及びタイにおけるアクションプラン策定に向けた調査の最終報告を行うとともに、両国におけるアクションプラン案について議論する予定。

以上